

会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和7年度 第3回 相模原市下水道事業審議会		
事務局 (担当課)		下水道経営課 電話042-707-1840 (直通)		
開催日時		令和8年3月23日 (月)		
出席者	委員	10人 (別紙のとおり)		
	その他	0人		
	事務局	15人 (土木部長、下水道経営課長、下水道料金課長、下水道保全課長、下水道整備課長、津久井下水道事務所長代理 他9名)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
議 題		<p>報告事項 下水道使用料の見直しについて (令和7年度第2回下水道事業審議会部会の検討結果について)</p> <p>情報提供 (1) 全国特別重点調査の進捗状況について (2) 相模原市公共下水道管路施設維持管理業務委託の落札者決定について (3) 津久井地域における汚水処理方法の見直しについて (4) 下水道PRキャラクターについて</p>		

報告事項 下水道使用料の見直しについて（令和7年度第2回下水道事業審議会部会の検討結果について）

「報告資料 下水道使用料の見直しについて」に基づいて、事務局が説明を行い、投資・財源シミュレーションに基づく今後10年間の財政収支見通しの中間報告について情報共有された。主な意見は次のとおり。

（佐々木委員）

本日の資料は、汚水処理と雨水処理に係る経費が含まれているということだが、下水道使用料に関連するのは汚水分なので、汚水と雨水を分けて議論した方がよいのではないか。

（事務局）

財政収支は、下水道事業全体としての見通しを示したものであり、使用料の対象となる経費については、令和7年度決算を踏まえた、より精度の高い数字を用いて説明する。

（赤尾委員）

シミュレーションの結果、8ページに「健全な経営が難しい見通し」となっているが、下水道使用料の議論をする中で、使用料の対象となる経費に限定した整理でも良いのではないか。

（事務局）

一般会計が負担する分は、所要額を繰り入れており不足することはないため、財政収支の赤字の要因は、主に使用料の対象となる経費によるものである。今回は、あくまでも下水道事業全体の収支見通しを示したもので、使用料改定については今後の審議会で説明する。

（大谷委員）

下水道事業の見通しを考える際、有収水量がどれくらいで推移し、全体にどの程度影響を及ぼしているのかを示す資料があると、より資料が見やすくなるのではないか。

長期財政シミュレーションを踏まえた検討は非常に意義があるが、ブレやリスクへの対応はどう考えているのか。

（事務局）

40年の投資・財源シミュレーションは、主に約50年で更新を迎える下水道施設への設備投資サイクルを把握するために作成したものである。10年間の財政収支見通しについては、投資・財源シミュレーションの直近10年間に、12ページ

にある人口推計、物価上昇率、借入利率などの条件を追加して試算している。

なお、備売れや想定外のリスクに対応するため3年毎の見直しは従来どおり行っていく。

(赤尾委員)

10年間の財政収支見通しに基づき算定した使用料を3年毎に見直すとはどういうことか。

(事務局)

向こう10年間安定した経営ができるよう、長期的な視点を持って使用料を設定したいと考えているが、ブレや想定外のリスクに対応できるよう、3年毎の使用料の見直しは従来どおり行い、必要があれば軌道修正をするものである。

(赤尾委員)

3ページで平成30年度と比較している意図は。

(事務局)

平成30年度は公営企業会計へ移行後、最も純利益が出た年であり、令和19年度との比較を分かりやすくするために設定した。

(広田会長)

シミュレーションの結果を分かりやすくするため、低位、中位、高位の比較で示した方が良いのではないか。

(事務局)

資料では定位ケースのみ示しているが、シミュレーション作業においては、低位、中位、高位の3パターンの試算をしている。今後の資料づくりの中で必要に応じて検討する。

(鈴木委員)

3ページの図で、令和6年度の純利益が減少した要因は、平成30年度から収益的収入の一般会計繰入金が減額したからではないか。また、平成30年度と令和19年度の一般会計繰入金がほぼ同額ということは20年前と同水準ということか。

(事務局)

一般会計からの繰出金については、総務省で繰出基準が定められており、本市の下水道事業会計は基準以外の繰出金は受けていない。

情報提供（１）全国特別重点調査の進捗状況について

事務局から「情報提供１ 全国特別重点調査の進捗状況について」に基づいて説明が行われた。主な意見は次のとおり。

(大谷委員)

２月に調査が終了したところで、緊急度Ⅰに関してスケジュール的に１年で修繕ができるのか。また、緊急度Ⅱは５年以内に修繕となっているが、その間、損傷の進行に対する再調査を行ったり、優先度の見直しなど定期的に行う予定はあるのか。

(事務局)

緊急度Ⅰは、令和８年度から導入する管路施設維持管理業務委託の中で修繕できると考えているが、対応できないものは一円費での別途対応で、１年以内の修繕は可能と考えている。また、緊急度Ⅱの再調査に関しては、国が現在、高頻度化や新技術の導入方法等を検討しているので、その動向を見ながら対応を考えていきたい。

情報提供（２）相模原市公共下水道管路施設維持管理業務委託の落札者決定について

事務局から「情報提供２ 相模原市公共下水道管路施設維持管理業務委託の落札者決定について」に基づいて説明が行われた。主な意見は次のとおり。

(大谷委員)

このような包括的な業務委託は、相模原市で初めてだと思うが、とても意義のある取組だと思う。今後もその取組効果の検証を行い、課題などを洗い出しながら予防保全の実効性に期待をしている。

(事務局)

下水道事業については、１２年度からはもう少し長い単位での包括委託を考えるとともに、現在対象となっていない下水道施設も含めて課題を検討していかなければならないと考えている。

情報提供（３）津久井地域における汚水処理方法の見直しについて

事務局から「情報提供３ 津久井地域における汚水処理方法の見直しについて」に基づいて説明が行われた。主な意見は次のとおり。

(佐々木委員)

公共下水道の整備予定区域の見直しとは、これ以上拡大しないということか。また、現在使用している区域も採算が合わなければ廃止することもあるのか。

(事務局)

公共下水道を整備する費用よりも合併処理浄化槽が安価となった場合は、合併処理浄化槽区域へ見直すということで、これから下水道を整備する予定の箇所が対象であって、既に公共下水道整備区域が供用開始しているところを廃止することではない。

情報提供（４）下水道PRキャラクターについて

事務局から「情報提供４ 下水道PRキャラクターについて」に基づいて説明が行われた。

その他

事務局から現在の任期中における審議会は最後となり、令和8年度の「第1回相模原市下水道事業審議会」は令和8年7月頃に実施予定である旨、伝えられた。

以 上

相模原市下水道事業審議会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	関戸 仁	相模原市自治会連合会(緑区)		出席
2	割柏 秀規	相模原市自治会連合会 (中央区)		欠席
3	鈴木 真司	相模原市自治会連合会(南区)		出席
4	内山 雅之	相模原市農業協同組合		出席
5	篠崎 栄治	相模原商工会議所	副会長	欠席
6	福原 信広	特定非営利活動法人 男女共同参画さがみはら		欠席
7	落合 英雄	さがみはら消費者の会		出席
8	青山 勝	相模原の環境をよくする会		欠席
9	青山 光男	公益財団法人 神奈川県下水道公社		出席
10	石田 三成	東洋大学 経済学部 准教授		欠席
11	広田 啓朗	武蔵大学 経済学部 教授	会長	出席
12	碓井 敦子	碓井公認会計士事務所		出席
13	赤尾 恒博	公募委員		出席
14	佐々木 徹	公募委員		出席
15	大谷 英久	公募委員		出席